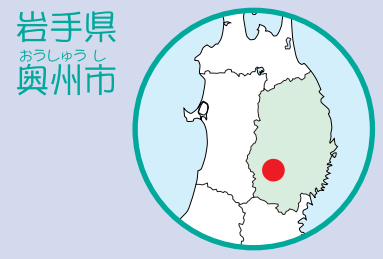


事例紹介

「えぐね」が残る農村景観を保全し、ギバチを守っています



岩手県奥州市では「えぐね」と呼ばれる屋敷林に囲まれた美しい散居集落が広がり、美しい景観が形成されるとともに、ため池や網の目のように張り巡らされた水路と水田により、多様な生態系が形成されています。



「えぐね」のある散居集落 (写真提供: 胆沢平野土地改良区)

いさわ南部地区(国営農地再編整備事業)では、農作業の効率を向上させるために、農地の区画整理や道路、用排水路の整備を進めており、整備に当たっては、「えぐね」や河畔林等の緑地環境を保全するとともに、水棲生物の生息環境に配慮した排水路整備などを実施し、水辺と緑地のネットワークの形成を推進しています。



魚類の移動に配慮した排水路

希少種(ギバチ)

事例紹介

バイオマスの利活用などによる循環型社会を目指して



大分県日田市では、平成12年に「日田式循環型有機農業」を政策に掲げ、環境保全型農業・循環型農業を中心とした農業戦略に基づいた環境都市づくりを進めています。農業と畜産の連携による安全・安心な

農産物の生産、地産地消、バイオマスの利活用などの具体的な取り組みを通じて、日本一の循環型社会の形成を目指しています。



Column

疏水百選～先人達が作り上げた農の資産～

「疏水」とは、かんがいや舟運のために、新たに土地を切り開いて水路を設け、通水させることをいいます。わが国はアジア・モンスーン地域に属し、雨の多い湿潤な気候風土にありますが、急峻な地形のため豊富な水資源がすぐに海に流れ出てしまいます。このため、私たちの先祖は、ため池や堰を築いて水を貯留し水路を築いて、村まで水を引き農業を営んできました。この水路は、小規模なものも含めると約40万kmにも達し、地球10周分の長さになっています。我が国の伝統や文化の源となり、また農業生産だけ

ではなく、美しい農村風景と多様な生態系、さらには洪水防止などの多面的機能を支えてきた疏水。「疏水百選」では、平成17年度10月から12月にかけて、広く国民の皆様からの投票と選定委員会による評価を行い、全国の疏水の中から110箇所が選定されています。平成18年度には、疏水百選に選定された地区のうち41箇所「水土里の路疏水百選ウォーキング」が開催されるとともに、第1回疏水サミットが青森県で開催されるなど、疏水への関心は年々高まっています。



福岡県朝倉市 堀川用水 三連水車 (写真提供: (社)農村環境整備センター第5回「私の好きな日本の農村」フォトコンテスト佳作「夏の思い出」谷口公一)



群馬県高崎市 長野堰用水 円筒分水堰 (写真提供: 水土里ネット「疏水名鑑」)



岡山県倉敷市 東西用水 南配水樋門 (写真提供: 水土里ネット「疏水名鑑」)



熊本県山都町 通潤用水 通潤橋 (写真提供: 水土里ネット「疏水名鑑」)

疏水百選ホームページURL <http://www.inakajin.or.jp/sosui/index.html>